

医学生・若手医師のための 第4回心身医学合同セミナー

会 期：2019年3月23日（土）・24日（日）

会 場：東北大学医学部講義棟2階中講堂

医学生・若手医師のための第4回心身医学合同セミナー報告

佐藤康弘*

*東北大学病院心療内科

2019年3月23日（土）・24日（日）の2日間、東北大学医学部において医学生・若手医師のための第4回心身医学合同セミナーを開催した。主催は日本心身医学会であり、企画・運営は学会の戦略・評価委員会傘下にある若手ワーキンググループ(Working Group: WG)が担当した。

このセミナーは医学生と、研修医を中心とした若手医師を対象としたもので、心身医学の啓発および心身医学の新たな担い手の獲得を目的に毎年1回開催している。今回は東北地方で初の開催となった。若手WGのメンバーが運営、企画、広報に分かれ、毎月インターネット上でリモートミーティングを重ねつつ準備を進めた。ポスター、メールに加え、若手WGのFacebookとTwitterを立ち上げて宣伝に努め、心身医学会会員の先生方のご協力も得た結果、参加登録者は計23名となり、当日欠席が出たため20名が実際に参加した。内訳は医学生13名、初期研修医4名、3年目以降の医師3名であり、東北と関東からの参加者がそれぞれ全体の40%を占めていた。心療内科医など26名が、演者やファシリテーターとしてボランティア参加した。本セミナーの講師は心身医学の第一線で活躍する先生方で、多くが若手WGのメンバーである。

1日目はまず、東北大学大学院医学系研究科行動医学分野、日本心身医学会理事長の福土 審先生にごあいさつをいただいた。次いで本学会の理事であり、若手WGの指導役である東京大学医学部附属病院心療内

科科長の吉内一浩先生から本セミナーの趣旨、日本心身医学会入会のお誘いなどについてお話しいただいた。

講義の最初は福土先生による「心身医学総論」で、心身医学、心療内科の社会における必要性から、心身相関に関する最新のエビデンスまでを熱く語っていただいた。続く「心身医学的治療法を学ぼう」は九州大学病院心療内科の乙成 淳先生が担当され、さまざまな心身医学的治療法を段階的に進めていく方法について、具体的にお話しいただいた。続く「病態仮説の立て方」では、東京大学医学部附属病院心療内科の堀江武先生がストレスモデルに立脚した病態仮説の構築方法を解説、さらに仮説をどのように実際の治療に結びつけていくかまで講義していただいた。続いて行われた症例グループワークでは、東邦大学医療センター大森病院心療内科の上野孝之先生から症例提示をしていただき、JCHO 仙台病院心療内科の町田知美先生の司会で、病態仮説構築と治療方針決定の2つのテーマでディスカッションを行った。1型糖尿病に神経性やせ症を合併した難しい症例だったが、参加者は活発に意見を出し合い、アイデアを付箋に書き込んでホワイトボードに貼り、まとめていった。すべての班に発表していただいたが、いずれもよく考えられたすばらしいプレゼンテーションだった。1日目の最後を飾る懇親会では、参加者とスタッフの間で心身医学をめぐる話に花が咲いた。

2日目には関西大学医学部心療内科学講座の蓮尾英



Fig. 1 集合写真

明先生、島津真理子先生から、「明日から使える面接法、困ったときの対処法」と題して医療面接の技法を紹介し、診察場面の実演を交え講義していただいた。「コミュニケーション」では「診療場面を見てみよう」というタイトルで近畿大学医学部内科学心療内科部門の阪本 亮先生から診察場面の再現ビデオをご紹介いただいた。鹿児島大学病院心身医療科の網谷真理恵先生には「ロールプレイ」を担当していただいた。行動変容を促す面接技法を紹介し、その後ファシリテーターの扮する模擬患者を相手に参加者が医師役となってロールプレイを行った。驚くほど巧みに面接を行う参加者もいたし、戸惑う参加者がファシリテーターから適切なアドバイスを受けて何とか乗り切る様子もみられた。最後には福土先生から参加者代表に参加証明書を授与し、若手 WG リーダーである聖路加国際病院心療内科の山田宇以先生からのあいさつで充実した2日間を締めくくった。会場では日本心身医学会入会申込書を配布したが、その場で3名から申込みがあった。

アンケート結果をみると、多くの参加者からこのセミナーを友人・知人にも勧めたいとの高い評価を得た。次回の開催地としては今回同様に各地を回る方式を望む声が多く、開催時期も3月を希望する意見が多かった。今後望むテーマとしては、緩和ケア、症例検討、慢性疼痛、呼吸器心身症、心理検査、心理療法、



Fig. 2 グループワーク

研究、医療面接などが挙がっていた。多くの参加者が今後同様の企画を知らせてほしいと望んでおり、さらには若手 WG への参加希望者も7名にのぼった。明日の心身医学の担い手を獲得するという目的は十二分に果たせたものと思う。次回は東邦大学心療内科の主管で東京で開催することが決定している。さらなる発展に期待したい。

最後に、さまざまな形で支援してくださった東北大学の福土 審先生をはじめとする諸先生方、常に若手 WG を支援してくださる東京大学の吉内一浩先生、日本心身医学会に深い謝意を表する。